

別れの言葉

肌寒い風が吹きつつも、暖かい日差しが私
たちを照らす、今日、卒業を迎えることとな
りました。木々が芽吹き始め、春の日が射す
中で私達七十一期生は新たな一歩を踏み出
そうとしています。こうして立っていると、
一つひとつの思い出が、昨日のことのように
次々と甦ってきてきます。仲間とともに成長しな
がら過ごしたこの三年間がとても愛おしく感
じられます。

中学一年生でのスキー体験学習。初めての
大きな行事が楽しみでわくわくした気持ちと
新しいクラスメイトと馴染めるか不安な気持
ちが入り混じっていました。でもそんな心配
は必要ありませんでした。私はスキー初体験
だったので何もわからなくて困っていたとき、
同じグループのクラスメイトが滑り方を教え
てくれたり、手を貸してくれました。二日目
は楽しみながら滑りきることができました。
夜の学年レクやバスの移動中、部屋で過ごし

た時間などすごく楽しかったです。クラスの仲も学年の仲も深まる良い体験でした。

二年生では職場体験がありました。実際に大人に混じって働くということ。最初はすごく緊張していました。しかし職場に行ってみると職場の方々の仕事の内容を優しく丁寧に教えてくださり安心しました。うまくできなかった仕事も多くあり、働くということの難しさ、大変さを強く実感できたとてもいい経験になりました。

三年生になると、すぐに修学旅行がありました。クラスが変わってすぐの宿泊行事でも不安でした。一泊目は農家民泊で普段できかないような体験をたくさんさせてもらいました。難しいと感じることが多くありました。が、友達と一緒に試行錯誤しながら挑戦するのはすごく楽しくて、もっとしていたいと思ったのを覚えています。二泊目の夜はクラスレクがありました。肝試しや花火などしてすごく盛り上がりました。夜にクラスみんなで

遊ぶという普段絶対にできないことはすごく新鮮だったし、楽しかったです。最初に感じていた緊張はなくなり、このクラスみんなでもっともっと一緒にいたいと思いました。修学旅行を通じてたくさんの方の友達ができたとし、修学旅行があったからこそ友達の絆というのはより強いものになりました。また、この修学旅行をきっかけに他の地方のことも考えるようになりました。昨年に日本に上陸した台風の災害が起こったとき、親切にしてくださいました。農家の方のことが思い浮かび、心配になり、自分になにかできることはないだろうかと考えました。修学旅行から帰っても色々なことに気付くことができ、この修学旅行は僕にとってかけがえのないもので、一生忘れることのない思い出です。

私は卓球部に所属してました。クラブ入部の日、何もわからなくてとても不安でしたが、顧問の先生が優しく迎えてくださり、同級生のメンバーにも恵まれ、安心して入部す

ることができました。毎日の練習は厳しく、大変でした。怪我をしたり、つい熱くなってケンカをしてしまったり、色々なことがあります。ましたが、そのたびにたくさんの人に支えてもらいながら乗り越えました。そしてあつという間に月日は流れ、私たちが部を引っ張る存在になりました。たくさんの後輩が入部してくれ、本当に嬉しかったです。また、私は部長を務めることになりました。任せてもらった分、頑張りたいと必死に努力しましたが、部長の仕事は想像以上に多く、たくさんの方がうまくまとめられず、何度も「苦しい、辞めたい」と本気で考えました。しかし「頼りにしてるよ」「いつもありがとう」と伝えてくれる仲間や顧問の先生のその一言に助けられ、最後まで頑張ることができました。そしてみんなで頑張り続けた結果、豊能地区四連覇することができました。部長として出させてもらった表彰式から見る景色。それは本当に素晴らしかったです。部のエースでもな

い私がこんな素敵な景色を見れたのは紛れもなく、三年の仲間たち、そして先輩、後輩、顧問の先生、家族のおかげです。部長はみんなを支えなければならぬと思っていました。が、支えられていたのは私でした。卓球部で過ごした三年間はすべて宝物です。

中学校生活最後の体育大会は各クラスが協力し、思いを込めて制作した個性豊かな応援旗が輝く中、開会しました。最後の体育大会のため、また新しく導入された「応援グッズ」もあり、三年生の応援は今までよりも熱く、一致団結し、気合の入った応援になっていました。男子のムカデリレー、女子の棒引きで盛り上がる中、三年生で初になるクラスごとのダンスの時間になりました。本番、全員で成功できるように休み時間を割いて毎日一生懸命練習し、努力しました。その分、ダンスを踊りきったとき、クラスの達成感は本当にすごかったし、ダンスが苦手で嫌がっていた子も「楽しかった」「大成功だ」と感じてく

れて、すごく嬉しい気持ちになりました。そして結果発表。すべてのクラスが頑張った中私のクラスは最下位でした。ガツカリした気持ちになるかなと思いましたが、そんなことはなく、応援やダンスが楽しかった記憶でいっぱいでした。また、クラスのみんなが体育大会後の教室で「今までで一番楽しかった」「最高やった」と話す姿を見て温かいクラスだな、このクラスで良かったなと心から思いました。私がこう感じたように三年生での体育大会は、結果はどうであれ、みんなの思い出として深く残っていると思うし、クラスの仲が一層深まる行事になったと思います。

そして中学三年生になった僕たちには受験という大きな壁にぶつかりました。部活動も引退してそれぞれの志望校に向けて本格的に勉強し始めました。けれど、それは決して楽しいものではなく、辛く苦しいものでした。自分で望んでいるような結果が出せなくて何度も苦しい思いをしてきました。でも、

苦しんでも逃げださずに頑張れたのは友達がそばで支えてくれたからだと思います。僕が苦しんでいるときには友達が声をかけてくれ、友達が苦しんでいるときには僕が声をかけました。そういった支え合いが自分たちをここまで頑張らせてくれたのだと強く感じています。時には昼休みにみんなでふざけたりして「ああ、変な時間過ぎしちゃったな」と思うこともあったりしました。しかし、休み時間の遊びなども含めてここにいる仲間がいてくれたからこそ、ここまで頑張れました。それは仲間がいてくれたからできたことで、一人でも欠けていたらダメだったと思います。ここにいるみんなとの出会いがなければ今の僕はいないと思います。この中学校生活を素敵なものにしてきてくれてありがとう。感謝は言い尽くせません。この出会いを大切に卒業してから頑張りたいと思います。

家族へ。中学校でたくさんの新しい人との出会い、たくさんの人に支えてもらいました。

そんな中、ずっと変わらずに支え続けてくれる存在、それが家族です。中学校一年生までは家族の存在を当たり前前と考えていました。三年生になるにつれ、心も体もどんどんな大人に近づき、自分の意見、考えをしっかりと持つようになり、親とのケンカが増えました。しかし、家族は私の部活や受験の悩みと真摯に向き合ってくれました。三年生になって周りを見ることができるようになった今、当たり前前だと思っていた家族の存在を当たり前前ではない、欠かせない大切な存在だと深く考えるようになりました。今まで数えきれないほどの迷惑をかけてきたのに、いつも笑顔で優しく包みこんでくれる家族を尊敬しています。まだまだ未熟な私を今日まで支え続けてくれたこと、どれだけ感謝の言葉を並べても足りないくらい本当に感謝しています。ありがとう。そして家族のような温かい心を持った笑顔あふれる人になれるよう、これからももっと頑張り続けるので、サポートよろしくお

願います。

先生方、今日までご指導くださり、ありがとうございました。勉強だけでなく、大切なことをたくさん教えていただきました。これから一生懸命頑張りますので、見守っていただければと思います。

在校生の皆さん、あなたたちが二中を引っ張って行ってください。私達も応援しています。

私達は今、二中に別れを告げ、一人ひとりが、自分の選んだ進路へ進もうとしています。自分に自信を持ち、輝かしい未来にしていきたいです。うまくいかないときは、二中で学んだことをしっかりと出し、諦めずに前を向いていこうと思います。

最後になりましたが、豊中市立第二中学校のこれからの発展を心からお祈りし、心からの感謝をこめて別れの言葉といたします。

二〇二〇年 三月十三日

第七十一回卒業式